

## 令和5年度第3回米子市保育所等給食運営委員会会議概要

- 1 開催日時 令和5年11月16日(木)午後2時00分～午後3時40分
- 2 開催場所 米子市シルバー人材センター 2階会議室
- 3 出席者 (敬称略)  
[米子市保育所等給食運営委員会委員]  
斎木委員、新宮委員、梁川委員、吉元委員、松本委員、田中委員、川島委員、堀部委員(欠席:松永委員、野内委員)

### [事務局]

枡本担当課長補佐

- 4 会議の次第
  - 1) 開会
  - 2) 議事
    - (1) 令和5年度保育所等給食調理業務視察について
    - (2) 令和5年度上半期保育所等給食調理等委託業務評価について
    - (3) 給食調理業務実施状況について
  - 3) その他
  - 4) 閉会
- 5 議事の概要

(注 資料説明は省略してあります。また、発言は要約してあります。)

事務局 「資料1」を説明

事務局 ニトリル手袋の使用については、サイズのあったものを使用し、使用前後にきちんと確認するなど改めて異物混入防止、衛生管理の徹底をお願いしている。なお、ニトリル手袋使用方法としてはアルコールを使用しないでよいとされている。ラップの使用については、大量調理施設衛生マニュアル等において、基準がないため、定め難い。盛り付け後の食事のラップ使用に関しては今までの通りにラップをすることとし、調理中のラップの使用に関しては必ずしもしなくてよいと判断させていただきたい。各業者、個々の判断で安全対策をとっていただきたい。

委員 A 以前は異物混入の事故が多かった。どう防ぐかといことで、ラップをすることになった。これまでも委員会で話をしてマニュアル整備などを行い、アレルギーの誤提供もなくなった。ラップをしないことは、異物混入につながる。どうしたら混入がなくなるのか考えなくてはならない。大丈夫なものはしなくてよいというのは、浅はかな考えである。

視察では調理台に食器が出しっぱなしだった。また、皿を片方しか確認していない人もいた。自信を持って、落ち着いてされていたが、やっていることが人によって違っていた。違う認識のままにしているのが異物混入につながる。人がすることなので、定期的カンファレンスが必要で職員全員が共通した意識を持っておかなければならない。相違をなくしないと給食事故「0」にはならない。園側についても何かあった時に園長や園長補佐が不在でも対処できると事故が防げる。きちんと統一すべきで、園長会でも周知すべきである。

委員長 3業者になって、それぞれ見識や、技術の差もある。エビデンスのあるものは、き

ちんと共通した対応をとってもらようよう指導し、エビデンスのないものについては、各業者のノウハウをききながら、どの対応が一番いいのか探っていくと思う。ラップに関しては、異物混入も実際あったので、どこが正解なのか、どの程度の加減がよいか見出せなかった。目安はあるか。

委員 B 目安はないと思う。ラップがなかった時代に何が異物だったのか。ラップが混入した事例があるのかどうなのか。手袋が入る事例はよくあるが、それ以外に何かがあるか。

委員 A これまでの異物が、調理室か、配膳中なのか、どこで入ったのかが特定できなかったため、すべてにラップをすることになった。ラップの取り扱いは難しいものではない。なくせばいいものではないと思う。

委員 B 異物混入に何が想定できるかということ。調理室内で、金属たわしや画びょうなど使用しないように保健所も指導してきた。筆記用具も芯やキャップ等が落ちないボールペンなどを持ち込むように指導している。

委員 A 古い施設は衛生的とは言えない調理室内で調理員さんが頑張って衛生的に保って、やっておられる。視察では、調理中にホワイトボードに記入されていた。粉が落ちることがあるので、調理台近くではなく別の場所で使用すべき。そのような視点を持たないといけない。

委員長 委託業者といい方法を協議していきたい。

事務局 「資料2」を説明

委員長 質問等あるか。

委員 A 総評のコメントで、「どうして付着していたのか、園長が検証するようアドバイスするが、まず言い訳から始まるので、不安である」と記載がある園があるが、これは問題ではないか。

事務局 園長から園と委託業者との連絡体制が不十分であったとのことで聞いており、改善するよう委託業者に話をしている。

委員長 相手の言い分がここにはないが、少なからず連携がうまくいっていなかったとのことで、業者からも報告を受けている。人事異動を含めて体制を整えると聞いている。現場にいなかったので、わからないが、業者側の不手際もありつつ、誤解もあったのではないか。

委員 A こういったことが保育にも関係してくるので、今後も包み隠さず書いてください。

委員長 会社と委託契約をしているので、直接、社員に対して、どうこう園長が言う立場ではない。契約している米子市と委託業者がどういう事情だったのか、確認して契約上どうだったかを検証し、それを踏まえて委託業者には対応していただく。

事務局 「資料3～6」を説明

委員長 質問等あるか。

委員 A 肉の異物混入が多くないか。業者には異物混入がないようにきちんと言っていると思うが、責任問題になる。骨の混入は百歩譲れるが、髪の毛などはよくない。淀江どんぐり事故は、検食で気づかなかったのか。

事務局 園長補佐が検食をしたが、気づかなかった。

委員 A 焦げたことを報告していない。これは悪質ではないか。事務局はどう考えているか。

委員長 調理室で焦げたことを園に報告していなかったとのことで、業者には改めて注意を促した。また、次に発生した事故についても厳重に注意している。

委員 A 園長補佐が検食しているが、園長は不在だったのか。

事務局 園長は何かの対応中だったのではないかと思います。園長がいても、園長補佐が検食することはよくある。

委員 A 検食で焦げたことを確認できなかったが、園長補佐は反省しているのか。

委員 C 汁の上澄みを検食に入れて焦げが感じにくかったかもしれない。

事務局 今回、汁の検食が少量だったこともあり、見つけにくかった。その後は量を多くして確認している。

委員 A 視察のことで思い出したが、ラップの切り方で、ある調理員が食事の真上から切っていて雑だった。切れ端がついていることもあるので、少し離れたところでラップをすべきである。

委員長 学校給食ではラップの切り方の指導はあるか。

委員 D 学校給食ではラップは使わない。野菜は機械で切るので、切り方の指導はある。

委員 A 学校給食は最新の機器がある。異物が入らないよう徹底している。保育園でも古い、狭い空間で作業をすることを絶賛する。委託業者だが、園児にとってみたら、給食先生だと思っている。園長先生が給食の様子を見に来てほしいという気持ちはすごくよくわかる。行くことができなかったということもわかるが、一人でも行けたのではないかと思います。やはり、意思の統一が大事だと思う。

委員長 肉の異物混入だが、「0」が当たり前なのか。

委員 D 学校給食でも納入業者による異物混入はよくあり、検品で発見している。豆腐も腐ったものが納品されたこともある。

委員 A 調理員さんは細かいところまでよく見ているが、検品するために調理員さんがいるわけではない。関わっているすべてが、園児が食べるものだということを念頭に入れておいてほしい。

委員長 改めて業者ともどうやったら、事故が防げるかを検証して、最終的にきちんと提供できるようにしていく。

議事はこれで終了。事務局からその他についてあるか。

事務局 特になし

閉会